

秋田県水道ビジョン策定委員会

(第3回)

日 時 令和2年8月4日(火)
13:30～15:30
会 場 秋田地方総合庁舎 6階 604会議室

第3回秋田県水道ビジョン策定委員会概要

■開催日時 令和2年8月4日（火） 13:30～15:30

■開催場所 秋田地方総合庁舎 6階 604会議室

■出席者 西村委員長、金森副委員長、金委員、臼木委員、高橋委員、野中委員、村岡委員

【議題】秋田県水道ビジョンの策定について

1. 第2回策定委員会の意見への対応状況について

【事務局】 資料に基づき説明

●質疑事項

【委員】 1) 圏域の設定について、1圏域とは県全体でしょうか

【事務局】 そうです。

【委員】 1) 策定方針について、資料1の設定条件は料金を値上げする設定になっているのでしょうか。

【事務局】 管路更新として追加で必要な額を算出し、県民1人当たりの負担額を算出している。

2. 秋田県水道ビジョン策定方針に対する市町村の意見について

【事務局】 資料に基づき説明

●質疑事項

【委員】 1) 現状や今後の状況を考えると、何らかの広域連携は避けられないと思いますが、県として広域化、共同化をどのように考えていくのか現時点の意見を教えて頂けないでしょうか。

【事務局】 広域連携は避けられないと感じております。作業部会で意見を聞いた限りでは現実的に厳しいと感じてますが、継続して広域化などを模索し、市町村の意見交換の場を継続して設けて近い将来に具体例を見つけ推進していきたいと考えております。

【委員】 1) 作業部会での意見は、将来を見据えたビジョンの考えはでなく、現状をみた意見のみであり、10、20年後の考えがどれほど入っているのか疑問に感じます。

- 2) 第7章と第8章の内容について、広域化を目指すといいつつ省力化という考え方も含まれており、あいまいでビジョンがまとまっていないように思います。市町村との会話を重ねていくことは大事ですが、県として一定の方向性を示し、了解を得ることも必要ではないでしょうか。

【事務局】 将来目指すべきところ、現状を踏まえてできることを検討し整理します。

- 【委員】 1) 今後も作業部会を開催し情報交換を続けるということですが、このような取組はひとつの広域化ではないかと思います。
- 2) 水道料金の見直しは市民の理解、首長の考えなど様々な意見があると思うので、県は積極的に調整を行うことが大きな役割となるのではないのでしょうか。

3. 秋田県水道ビジョン素案について

【事務局】 資料に基づき説明

● 質疑事項

- 【委員】 1) 水道事業経営に必要な経費を回収しなければ独立採算という原則を守れないので、本編に経費を確保するため料金体系の見直しが必要という記載が必要ではないのでしょうか。
- 2) 作業部会の意見で職員が少ないが役割が多いとの意見がありますが、県は指導より支援する方策を考えた方がよいのではないのでしょうか。

【事務局】 市町村と一緒にやるという視点で検討したいと思います。

- 【委員】 1) 持続について、料金をあげて水道整備を続ける、広域化もしくは省力化など市町村の実情に応じてできること、やらなければいけないことを示すということは必要ではないのでしょうか。併せて県としてサポートできることを示していくことは必要ではないのでしょうか。

【事務局】 検討します。

- 【委員】 1) 秋田県の水道料金は東北地方でみると高い方なのでしょうか。

【事務局】 上水道事業、簡易水道事業とも県平均で見ますと東北平均では多少安く、全国平均と比較すると高めとなっています。

- 【委員】 1) 県の考えとして、第7章で全国と同様の手法による広域化はなじまないとありますが、第8章では全国と同様の手法で行うことになっていま

す。国が提唱しているような広域連携は難しいと思われますので、取組イメージは実現可能な内容で整理した方が良いのではないのでしょうか。

- 2) 秋田県の将来ビジョンとしてソフト面の広域連携は必要だと思いますが、ハード面とソフト面の区別がないため整理が必要ではないのでしょうか。

【事務局】 県の実情にあった広域化を模索し整理します。

- 【委員】
- 1) 国が提唱している広域化を秋田県で実施しようとした場合、どれだけメリットがあるか、実現の可能性があるかということを考えると、広域化の取組イメージを整理するのはむしろかしいと思いますが、イメージを示すことは広域化に取組む、進めるということになりますので、秋田県が目指すビジョンとして適切な表現にしたほうが良いと思います。
 - 2) 普及率100%を目指さないとはある意味、広域化という方向性とは違うと思います。地下水を活用する、小規模分散型を目指すとのことですので、ハード的には広域化を目指すという将来イメージではないと思います。

- 【委員】
- 1) 地下水の利用について、水道事業者で井戸の整備に補助を出しているところもあるようですが、水量はあるが必ずしも水質がいいとは限らないようです。水質を維持するため設備に苦勞している話も聞いています。
 - 2) 若手職員は人事異動により数年で変わってしまい育成が進まない。職員には水道業務を嫌う職員がいますが、興味をもっている職員もいるため、そういった職員を育成できればいいと考えています。

- 【委員】
- 1) 自治体との連携とは別に水道に従事する職員の広域連携ができれば持続へつながるのではないのでしょうか。

- 【委員】
- 1) 当校の卒業生が関東の上下水道関係の企業に就職しております。地域の若者にとってニーズがない職種ではないと感じています。推薦制の導入を検討するなど人材確保の方法を検討してはどうでしょうか。

- 【委員】
- 1) 技術の継承について、当町では技術職の採用がなく事務職が上水道担当になってはじめて水道について知ることになります。

先日、建設部担当者の会議があり、土木技術職員が少ないことから、試験的に人材確保対策を検討してみようということになりました。水道担当

職員も含めた技術職員を確保することを要望しましたが、連携して検討してもらえるとよいと思います。

【委員】 1) 安全について、最近、橋に添架されている水道管が落下したことが原因による断水事故がありました。早期に復旧しましたが、施設の老朽化が進んでいるようです。住んでいる地域の水はおいしいと感じておりますので、いつでも安全な水を供給できるようにして欲しいと思います。

【委員】 1) 施設の老朽化による事故は全国的に増加しており、施設更新が進まないことによる老朽化の進行が大きな問題となっております。断水になると衛生面でも大きな問題につながりますので、安全確保も重要と思います。